

## 商学研究科 教員情報

＜金融・証券系列＞

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| 氏名               | 小原 英隆（おはら ひでたか）  |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程:「金融理論特論」  |   |
| 研究テーマ            | 【NOT ファイナンス】貨幣社会の極限的状況の抽象的分析   |   |
| 研究指導領域           | 【NOT ファイナンス】貨幣社会学・貨幣哲学・貨幣の純粹抽象理論   |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣の抽象哲学</li> <li>・貨幣はいつ、いかにして誕生したか</li> <li>・貨幣の社会学</li> <li>・ジンメル</li> <li>・ゲゼル</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的信認と貨幣</li> <li>・ハイパーインフレーション</li> <li>・ロゴフ</li> <li>・人口減少とM.フリードマンの恒常所得仮説</li> <li>・サージェントの合理的予想の理論</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>研究大学院は学部の延長線上にはなく、お金にならなくても真理追究、人類知の進歩のために研究・修業を重ねる学問の塔である。学問とはお金を稼ぐため、良い就職を得るため、キャリアアップのためのことは一切行わない。後者が欲しい人々はビジネススクール＝経営大学院に行くしかない。本研究室に来るには、学部時代に経済学ないしは金融学を専攻しミクロ経済学・マクロ経済学・金融経済学・統計学・計量経済学全てにおいて、全て、Sグレードを取るくらい完璧に学習し、なおかつ、自分の予定する研究テーマに関する専門書を10冊以上精読することが大前提である。研究大学院では学部と異なり、教授から一方的に知識を受け取るのではなく、自ら修士論文を目指して、自主的に研究することがほとんどとなる。2年目に書く修士論文は、本研究室では、ただ調べて書いただけの、おざなりなもの(サーベイ論文)では失格とする。修士論文は学問レベルで何か新しいものを付け加えるようなプロレベルものでなくてはならない。</p> |   |

## 商学研究科 教員情報

＜金融・証券系列＞

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| 氏名               | 伊藤 隆康 (いとう たかやす)   |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程:「金融機関論特論」「金融機関論特論演習」<br>博士後期課程:「金融機関論特殊研究」「金融機関論特殊演習」   |   |
| 研究テーマ            | 中央銀行と金融市場,中央銀行の市場との対話  |   |
| 研究指導領域           | ・中央銀行,金融市場,金融システムに関連した分野   |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央銀行</li> <li>・金融政策と市場との対話</li> <li>・国債</li> <li>・金利スワップ</li> <li>・国際金融市場</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融システム</li> <li>・REIT(Real Estate Investment Trust)</li> <li>・金利形成</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | 金融分野を研究していくには、幅広い金融の知識に加えて、経済学、統計学、会計学などに関連した分野の知識が必要不可欠です。また、金融に関連した先行研究は、外国語の文献が多いため、英語力が必要となります。データを用いて客観的に現実の金融問題を検証することが大切です。 |   |

## 商学研究科 教員情報

### ＜金融・証券系列＞

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 氏名               | 北岡 孝義（きたおか たかよし）   |  |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「証券市場論特論」「証券市場論特論演習」<br>博士後期課程：「証券市場論特殊研究」「証券市場論特殊演習」   |  |
| 研究テーマ            | マクロ証券金融市場の実証研究，金利モデルとイールドカーブの実証研究，貨幣本質論に関する研究  |  |
| 研究指導領域           | <p>指導教員の過去の研究領域に鑑みて、指導可能な研究領域は概ね以下の3つに分けることができる。1つは、マクロ証券金融市場の実証研究である。金融政策の短期金融市場や株式・債券市場への影響を実証的に分析する。いわゆる「金融政策波及経路」の研究である。2つは、数理ファイナンス分野の研究である。金利モデルとイールドカーブ、金利デリバティブ、クレジットデリバティブの価値評価の研究である。この研究は、前期課程の「証券市場論特論」の講義で扱っている。3つは、貨幣本質論の研究である。金本位制度やHayekの競争的貨幣供給の理論モデルに関する研究である。最近では、戦間期の金本位制度の実証研究を行っている。以上のように、研究指導可能な領域は多岐に渡る。広く証券・金融分野のテーマであれば指導可能である。過去の前期課程・後期課程の研究指導のテーマは、金融政策の有効性、株式市場のイベント・スタディ、株式市場のマイクロ・ストラクチャー（Informed Traderの問題）、株式・債券市場（イールドカーブ）の国際連関、不動産価格の決定、不動産の証券化等々多岐に渡っている。</p> |  |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期金融市場</li> <li>・金融政策の波及経路</li> <li>・金利確率モデル</li> <li>・イールドカーブ</li> <li>・クレジットリスク</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣本質論</li> <li>・金本位制度</li> <li>・時系列分析</li> <li>・ベイジアンVAR</li> <li>・アプリケーション・ソフト</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>研究指導はどのようなテーマを選択するにせよ、実証研究が中心となる。実証分析はデータ分析が不可欠であり、そのためには、計量経済学など実証分析の統計的方法（特に、VARモデルなどの時系列分析）の知識と、表計算ソフトExcel、計量分析用アプリケーションパッケージ・ソフトEViews、数値解析ソフトMatlab等に習熟することが望ましい。志願者は、事前に計量経済学の知識や上記のソフトに習熟していなくても大丈夫だが、研究室に入ってからでは、集中的に計量経済学やExcel、EViews、Matlabの学習をしてもらいたい。研究室では、隔週、授業とは別に実証分析の方法を学習する勉強会（現在はベイジアンVAR）を行っている。また、前期課程「証券市場論特論」、後期課程「証券市場論特殊研究」においても、実証分析の方法、Excel、EViews等のソフトを使った分析例を解説している。</p>   |  |

## 商学研究科 教員情報

＜金融・証券系列＞

|                  |   |   |
|------------------|---|---|
| 氏名               | 打込 茂子（うちこみ しげこ）   |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「国際金融論特論」「国際金融論特論演習」<br>博士後期課程：「国際金融論特殊研究」「国際金融論特殊演習」  |   |
| 研究テーマ            | 国際資本移動と国際金融システム, 国際通貨システム   |   |
| 研究指導領域           | <p>広く言えば、国際資本移動の活発化に伴う諸問題とこれに対する政策対応を検討することを通じて、安定的な国際金融システム、国際通貨システムを如何にして構築すべきかという問題について研究指導を行います。世界金融危機を契機とした国際的な金融規制・監督政策の見直しの動き、ユーロ圏の金融システム改革の動きなども扱います。</p> |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融のグローバル化</li> <li>・国際金融市場</li> <li>・国際的な金融規制</li> <li>・欧州銀行同盟</li> <li>・外資系銀行</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・為替相場制度</li> <li>・国際通貨</li> <li>・通貨の国際化</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>国際金融の領域は大変変化が激しく、チャレンジングな分野です。金融はきわめて実践的な学問ですので、金融の本質を理解するには、現実の動きに即して理解・考察を深めつつ、理論的な面からもアプローチしていく必要があります。国際金融の理論と現実についてバランスよく研究することを基本とします。</p>               |   |

## 商学研究科 教員情報

### ＜金融・証券系列＞

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 氏名               | 萩原 統宏（はぎわら もとひろ）   |  |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「金融取引論特論」「金融取引論特論演習」<br>博士後期課程：「金融取引論特殊研究」「金融取引論特殊演習」   |  |
| 研究テーマ            | 企業財務，資本市場，および，投資行動に関する定量的分析  |  |
| 研究指導領域           | 預金・債券・株式等を対象とする金融資産運用において、より高く、より安定した収益を達成するため、機関投資家、個人投資家を問わず、多くの人々が、数え切れないほどの投資戦略を考案してきた。それらの投資戦略の中で、ある程度長期にわたって有効であることが立証され体系化されてきたものが、いわゆる現代ポートフォリオ理論であり、それに対する拡張である行動ファイナンス理論である。しかし、投資戦略が、他の投資家よりも高い収益を達成することを目的とする以上、投資戦略が理論として体系化され、広く知られてしまうことは、その戦略によって高い収益を得ることを不可能にしてしまうことにつながる。また、ある時期、ある市場において優れていた投資戦略が、将来においても、また別の市場においても有効である保証は無く、優れた投資戦略とは、投資する時期・投資する市場ごとに異なると考えられる。したがって、「優れた投資戦略とは何か」という問題は、正解の無い問題であり、議論の尽きない魅力的な問題と言える。投資戦略とは、結局、「何を買うべきか＝何が割安なのか」「何を売るべきなのか＝何が割高なのか」を判断する価格評価基準を持つことを指す。価格評価基準は、投資家だけでなく、株式・債券を発行して資金調達を行う企業経営者にとっても重要である。なぜなら、「割安である＝投資して資金運用」「割高である＝発行して資金調達」という判断ができるからである。したがって、金融投資戦略の知識は、運用の実務家または個人投資家にとっただけでなく、企業の財務・資金調達活動を企画する実務家にとっても有用である。 |  |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式評価</li> <li>・債券評価</li> <li>・企業価値評価</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・非財務情報</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略</li> <li>・資本構成</li> <li>・財務戦略</li> <li>・人的投資</li> <li>・ダイバーシティ経営</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | 過去の指導修士論文のテーマは、「日本の銀行の株価収益率に対する収益・財務構造に基づく分析」「女性の活用による企業価値への貢献の可能性」であり、優れた才能は要求せず、各学生のレベルに応じた指導をしてきました。私の研究室は、実務家志向の人、そのために役に立つ学問をしたいと考えている人を特に歓迎し、真面目で明るく学問に取り組む姿勢を強く求めます。  |  |

## 商学研究科 教員情報

＜保険系列＞

|                  |   |   |
|------------------|---|---|
| 氏名               | 中林 真理子（なかばやし まりこ）   |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「保険理論特論」「保険理論特論演習」<br>博士後期課程：「保険理論特殊研究」「保険理論特殊演習」  |   |
| 研究テーマ            | 保険・リスクマネジメント・企業倫理に関する包括的研究  |   |
| 研究指導領域           | <p>保険はリスクファイナンスの有力な一手法である。リスク処理に関する専門知識を有する保険会社にリスクを移転することで、より少ない負担でより効果的なリスク移転が可能になることが多い。そして近年は保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。</p> <p>本研究室では、企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論と実践について研究指導を行う。組織の活動は、様々なリスクの影響下において展開されている。このため組織の構成員がリスクについて理解し認識していないと、思わぬところでダメージを被り、組織としての持続的・安定的な経営が脅かされることになる。そこで、リスクマネジメントの知識習得に加えて、ケーススタディーにより、ビジネスリスクとそれに対するリスクマネジメントプロセスに従った対応策について検討する。この際、企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目している。</p> |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険理論</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・リスクコントロール</li> <li>・リスクファイナンス</li> <li>・企業倫理</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレートガバナンス</li> <li>・コンプライアンス</li> <li>・モラルハザード</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>保険関連科目はファイナンス系科目の一部として設置されていることが多いですが、明治大学大学院商学研究科は保険関連科目が充実し、保険系列として独立している数少ない研究科です。</p> <p>保険を含む多様なリスクファイナンス手法の開発が進んでいる一方、保険は欠かせない存在であり続けています。保険制度のこのような有用性が何に由来するものなのか見極めることから、リスクマネジメントの本質について考察を深めましょう。</p>   |   |

## 商学研究科 教員情報

＜交通系列＞

|                  |   |   |
|------------------|---|---|
| 氏名               | 藤井 秀登（ふじい ひでと）  |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「交通理論特論」「交通理論特論演習」<br>博士後期課程：「交通理論特殊研究」「交通理論特殊演習」  |   |
| 研究テーマ            | 持続可能な交通政策に関する研究   |   |
| 研究指導領域           | 交通理論とは、交通という現象の実体を歴史的・体系的に認識しながら、交通の論理を概念的実体として体系化することです。そのために、哲学・論理学の構築過程をまずは辿り返すこと、同時に、社会経済学と経済社会学の歴史的・体系的な修得をすることが求められます。そこで、認識論・経済学・社会学に対する基本的な理解が得られるように指導していきます。こうした基礎作業を経たうえで、交通の歴史・理論・政策に関する研究動向を日本を基軸にしながら考察していきます。その際、陸運・海運・空運といった交通事業者の視点、社会変動の視点、国際的な比較の視点にも留意していきます。 |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通理論</li> <li>・交通政策</li> <li>・交通史</li> <li>・社会経済学</li> <li>・経済社会学</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の公共性</li> <li>・交通の持続可能性</li> <li>・都市交通</li> <li>・観光交通</li> <li>・生活交通</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | 学問とは反省即構成です。これは、現象だけに満足するのではなく、その構造と本質を探ること、さらに、本質から構造と現象を再構築していくことを意味しています。交通という各論に突入する前に、歴史性と体系性をもって交通を認識できる頭の中の目を創っていく過程が必要なのです。「急がば回れ」という格言のように、一見遠回りにみえても、成果を急ぐならば、着実な方法を採用することが得策だと考えます。  |   |

## 商学研究科 教員情報

＜交通系列＞

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| 氏名               | 小川 智由（おがわ ともよし）  |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「物的流通論特論」「物的流通論特論演習」<br>博士後期課程：「物的流通論特殊研究」「物的流通論特殊演習」   |   |
| 研究テーマ            | マーケティングとロジスティクスのインターフェース、メーカーおよび流通業のロジスティクス戦略、サードパーティロジスティクス企業の経営戦略  |   |
| 研究指導領域           | 流通機能の構成要素としての物流、企業戦略としてのロジスティクス、企業間連鎖としてのサプライチェーン・マネジメントなどについて、荷主企業の立場、ならびに3PLとしての物流企業の立場から、マーケティングとのインターフェースを考察しつつ、顧客サービス、延期（ポストポーンメント）概念などを基礎として、マクロ・ミクロの両面から分析するよう指導する。 |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物流戦略</li> <li>・ロジスティクス・システム</li> <li>・サプライチェーン・マネジメント</li> <li>・顧客サービス</li> <li>・サード・パーティ・ロジスティクス</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング</li> <li>・競争戦略</li> <li>・顧客価値創造</li> <li>・流通機能</li> <li>・延期・投機</li> </ul> |
| 志願者へのメッセージなど     | 着実に文献研究を行なう意欲と、現実の社会経済ならびに企業経営に関する洞察力を有していることが望ましい。  |   |

## 商学研究科 教員情報

＜貿易系列＞

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 氏名               | 小林 尚朗 (こばやし なおあき)  |  |
| 担当専修科目           | 博士前期課程:「世界経済論特論」「世界経済論特論演習」<br>博士後期課程:「世界経済論特殊研究」「世界経済論特殊演習」   |  |
| 研究テーマ            | グローバル化下の開発と貿易, 東アジア地域協力, 資本主義市場経済の現状分析   |  |
| 研究指導領域           | <p>世界経済論は、リアリズム的な「個々の独立した国家の国家間関係としての国際経済」というアプローチではなく、1つのシステムとしての世界経済を前提として成り立っており、グローバル化が深化する現代においてそのアプローチ方法は重要性を増している。本研究室では、グローバル化を深化させている現代資本主義、世界経済における周辺地域である発展途上国の経済開発、南北問題、そのなかで成功を収めているかに見える東アジア経済などについて、理論的・歴史的にアプローチしている。また、現実的な問題として、グローバルな市場経済化の進展がもたらす経済的・社会的問題とそれへの取り組み、グローバル化に対応するための地域経済協力モデル(東アジア共同体に向けた動きや欧州連合[EU]の動きなど)の意義と課題、新自由主義的なモデルの危機と国家資本主義の台頭、そして、勃興する中国と東アジア経済(および世界経済)などにも強い関心を持っている。その他、フェアトレードやエシカルトレードなどについての研究指導も可能である。</p> |  |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化</li> <li>・発展途上国の開発と貿易</li> <li>・東アジア地域協力</li> <li>・広域経済連携</li> <li>・貿易政策</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワシントン・コンセンサス</li> <li>・アジア・コンセンサス</li> <li>・新自由主義</li> <li>・世界システム論</li> <li>・フェアトレード</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>世界経済論は、現実の政治経済だけでなく、社会、文化、地政学、そしてこれらの歴史など、様々な分野を理解しなければ十分なアプローチができない欲張りな学問です。Slow, small, but steady. 簡単なことではないですが、社会科学として客観性を追求するとともに、経済学という「人間の科学」(A.マーシャル)に挑む研究者として、夢や理想の実現に本気で取り組んでいきましょう。私の研究室では研究のために研究する人物は不要です。人々が、自分が、幸せに生きるために研究する人物を歓迎します。</p>   |  |

## 商学研究科 教員情報

＜貿易系列＞

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 氏名               | 篠原 敏彦（しのはら としひこ）   |  |
| 担当専修科目           | 博士前期課程:「貿易商務論特論」「貿易商務論特論演習」<br>博士後期課程:「貿易商務論特殊研究」「貿易商務論特殊演習」   |  |
| 研究テーマ            | 日本企業の海外進出活動とそれに伴う諸問題   |  |
| 研究指導領域           | 1980年代後半以降、日本企業の海外進出はその業種や規模の大小を問わず着実に増加し、今世紀に入ってからその勢いは止まっていない。企業が現地で経営活動を営む場合、国内で確立した多様な領域にわたる活動システムを海外でいかに迅速かつ効率的に移転するかが課題となるが、そこには多くの障害や障壁がある。ここでは国際取引や国際ビジネスなど広く国際経営に関わるそれらの問題を取り上げながら現状分析を行い、課題解決へのアプローチを模索する。 |  |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多国籍企業</li> <li>・経営組織</li> <li>・市場戦略</li> <li>・現地経営</li> <li>・組織と管理</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメント・システム</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | 受講者各人は、国際取引、国際経営、国際ビジネス、多国籍企業経営などに関わる個別の問題意識が求められる。そのためにも早い段階から出来るだけ多くの最新文献サーベイに努めてもらいたい。  |  |

## 商学研究科 教員情報

＜貿易系列＞

|                  |   |  |
|------------------|---|--|
| 氏名               | 塩澤 恵理（しおざわ えり）  |  |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「国際ビジネス・コミュニケーション論特論」「国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習」<br>博士後期課程：「国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究」「国際ビジネス・コミュニケーション論特殊演習」  |  |
| 研究テーマ            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネスコミュニケーションの研究</li> <li>・一般的なビジネスコミュニケーションの研究</li> </ul>  |  |
| 研究指導領域           | <p>今や英語でのコミュニケーションは不可欠である。実際にビジネス取引を行う場合、通常の会話だけでは役に立たない。つまりビジネス及び貿易取引、交渉に必要な特別な言い回しや、特殊な熟語が用いられることが多い。本研究室では理論的かつ多角的アプローチでビジネスコミュニケーション、経済学、ビジネス慣習、用語、経済行動などを分析する。指導は基本的に英語（日本語も可能）で行うため、卒業後インターナショナルな場に遭遇しても即対応できる。</p> |  |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネス・コミュニケーション</li> <li>・国際貿易交渉</li> <li>・国際経済学</li> <li>・ビジネス交渉論（国内外）</li> <li>・経済学の分析</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の心理学、行動分析</li> <li>・異文化のビジネス分析</li> <li>・ビジネスリーダーの分析</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | <p>英語を翻訳せずにクラスでは自由に英語を分析道具として利用します。第一歩として英語に自信がなくても恐れずにチャレンジすることが大切です。<br/>ますますボーダレスが進む世界で活躍できるように自分を磨いて、勉強、研究しましょう。</p>  |  |

## 商学研究科 教員情報

＜貿易系列＞

|                  |   |   |
|------------------|---|---|
| 氏名               | 山本 雄一郎（やまもと ゆういちろう）   |   |
| 担当専修科目           | 博士前期課程：「国際ビジネス交渉論特論」「国際ビジネス交渉論特論演習」<br>博士後期課程：「国際ビジネス交渉論特殊研究」「国際ビジネス交渉論特殊演習」  |   |
| 研究テーマ            | 国際ビジネスにおける文化の影響、特に、交渉とコミュニケーションに与える影響に関する研究   |   |
| 研究指導領域           | 国際ビジネス交渉とは、言語・文化・商習慣・価値観等異なる企業間あるいは個人間のビジネス交渉を想定しており、一定の現実的効果をあげることを目的としたビジネス上の交渉である。学問的には、商学・経済学・心理学・法学・文化人類学・コミュニケーション等に関する学際的な位置づけとなる。現実のビジネス現場で行われる国際ビジネス交渉において、当事者はどのような課題・問題点に直面しながら取り組んでいるかをふまえ、解決策を考え、交渉はどうあるべきかを検討するのが領域である。グローバル化の進展の著しい今日において、理論やモデルのみにより、全てを論じるには難しく、ハーバード流交渉術や交渉スキル等の面も領域として考えている。 |   |
| キーワード<br>(10個以内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネス</li> <li>・交渉</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・契約</li> <li>・異文化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテキスト</li> <li>・意思決定</li> <li>・グローバル化</li> <li>・WIN-WIN</li> <li>・交渉スキル</li> </ul> |
| 志願者への<br>メッセージなど | 国際ビジネス交渉論は、さまざまな学問分野に関係する幅広い領域の学問です。日本人ビジネスパーソンにとって、国際ビジネス交渉を問題なく、効率的にかつ効果的に行うことができるかどうかは、長い間、課題となっています。他国、他文化のビジネスパーソンにとっても同様です。<br>現実の国際ビジネス交渉や多くの専門家の整理・分析を見ながら、課題・問題点を見つけ、より良い交渉を考えることにより、学問や研究目的のみならず、自らの実生活にも役立つことを発見・認識できれば、幸いと思います。   |   |

